

**今年の総会 5月18日(土)午後 東京で**

今年まもなく新年度を迎えますが、開発教育協議会の本年の総会は5月18日、土曜日の午後に東京で開催する予定です。基本的な議題は1991年度の事業計画や予算案の審議ですが、そのほかにも折角の機会を有効に利用しようと、計画を練っています。まもなく開催のご案内を差し上げることになりますが、今から参加の予定をしておいてください。



今年の研究集会は十周年記念  
8月23～25日 東京開催を企画中

開発教育協議会は1982年の12月に設立された。それからちょうど十年、今年の全国研究集会は十周年記念と銘打って、新しい試みを加えていこうと、事務局と運営会議で準備がすすんでいる。

新しい試みの第一には、課題研究という研究集会の進め方を論議しようということがあげられる。研究集会の議論を深めるための一つの方法として、課題研究を採用できるかどうか、今年の研究集会で話し合ってみようという狙いである。

第二には広く一般参加者も対象とした公開シンポジウムを、研究集会に先駆けて開いてみようということが検討されている。そこで研究集会全体では三日間の日程が組まれることになるのだが、その可否をめぐる論議が続いている。

そのほかにも、十年の歩みの記録を作成することなど、いくつかの新しい試みが検討されている。理事会の論議を経て近く募集要項が発表される予定。

**第4次国連開発十年計画**

国際連合は昨年暮れの総会で第四次国連開発の十年のための国際開発戦略を採択した。国連の開発計画は加盟国に義務

を課すものではなく、計画の実行は加盟国の意志に委ねられているので、どこまで実効を伴うものになるのかはわからないが、今日の開発課題の所在を示している。その要約からであるが、一部を簡単に紹介しておく。最初に前書きのような部分がある。

**☆80年代の状況と90年代の課題**

80年代(第三次国連開発の十年)の成果ははかばかしくなかった。景気後退、商品価格の下落、金利の上昇、貿易障害、過大な債務などなどによって、発展途上国の経済成長は年約3%程度に、GNPの増加率は年1%程度にとどまった。1960年代や70年代はそれぞれ平均で5.5%と3%であった。豊かな国と貧しい国との格差は一段と広がった。

残念ながら国連の予測では90年代もその傾向は続くだろうということである。これは危険なことである。相互依存が深まっているので、一国の経済不振やひずみはその国だけではなく、必ずそのほかの諸国に大きな影響を与える。だから90年代の予測を変えていくための努力がなされなければならない。

**☆目的と目標**

世界開発戦略の主目標は、発展途上国の発展を早め国際協力を強化していくことにある。また発展途上国の生活水準を改善すること、豊かな国と貧しい国との格差をちぢめること、政治経済の政策決

定に多くの国民が参加できるようにすること、国民の基本的人権と政治・経済の権利を尊重する政治システムを支持すること、などもその目標である。各国はそれぞれの開発政策と国民の福祉に責任をもっているものであり、それぞれの状況に見合った政策を取ることになる。

90年代の目標として次の6項が示された。

- 1) 発展途上国の経済成長の速度を早める
- 2) 社会的ニーズに合致する開発政策を採用し、極端な貧困をできる限り少なくするようにし、国民の能力を開発活用し、環境的に健全で持続可能な開発を図る
- 3) 金融、財政、貿易の国際的な仕組みを改善する
- 4) 世界経済を強化、安定させ、健全なマクロ経済運営を、国内的にも国際的にも確保する
- 5) 開発のための国際協力を強化する
- 6) 発展途上国のもっとも弱い部分である最貧困国群の特定問題を解決するように特別の努力をする

このあとは開発戦略の政策と方法についてである。まず開発を再活性化するというので、経済政策、債務、開発のための外部資金、国際貿易、商品、科学技術、産業政策、農業についての戦略を示したあとで、開発の優先領域が取り上げられている。優先領域は次の通りである。

### 貧困と飢餓をなくす

貧困をなくすことが第一に優先されるべきである。働く場を創設し収入を増やすことによって貧困をなくすことができる。その際に女性と子どものニーズに特に着目しなければいけない。また妊婦と児童の健康と栄養にも目を配るべきであ

る。長期的にみると、生活水準を高め貧困をなくすのは、経済成長によってだけ可能である。

貧困に対する戦いはすべての国の責任である。次の四つの目標に向かってすべての国が努力しなければならない。1) 飢餓とそれによる死をなくすこと、2) 栄養不足の状態を改善し児童の死亡率を低くすること、3) 周期的に飢えにさらされる状態を少なくすること、4) 栄養状態が悪いことによって生ずる疾病をなくすこと。

### 人材と制度

各国がそれぞれの必要、文化、伝統、開発課題などに応じて人材養成に取り組むべきである。教育については次の目標が設定された。1) 成人の非識字率を少なくとも半分に減らすこと、2) すべての国民が基礎教育を受けられるようにすること、3) 少なくとも世界の人口の80%が初等教育を終了するようにすること。

このための資金、人材、その他の資源が確保されなければいけない。

科学技術の発達の結果として地球の環境が急速に変化しているので、高等教育と職業教育によって技術者の確保がはからなければいけない。

基本的な保健と慢性疾病対策も重要である。衛生環境、飲料水、栄養の改善にも力を注がなくてはならない。女性と児童の健康にも特別の関心を払い、五歳未満時の死亡率を三分の一に、栄養不良者の率を半分に減らす必要がある。

発展途上国は相互協力によって職業訓練と高等教育の制度を確立しなければいけない。

### 人 □

90年代には人類の人口は20%以上も増え、高齢者が増える。人口施策は経済戦略の一部に位置づけるべきである。

### 環 境

すべての国が環境を守り、よくしてい

くための施策を講じなければいけない。工業国はこれ以上の汚染を防止する措置をとるべきである。発展途上国は経済成長と開発が図られない限り、環境破壊と環境保護とに適切な措置を講じえない。これらの国にはより多くの財政援助が与えられるべきである。発展途上国が環境にやさしい技術工学を活用できる道を検討しなければいけない。

#### 最貧困国群などの問題

国連総会が指定する最貧困国は1972年の24か国から1990年には42か国に増えた。これらのもっとも貧しい発展途上国は80年代の経済逆流の最大の被害国となった。

これらの国の壊滅的な経済状態はなんとかして救わなければいけない。1990年の最貧困についての第二回国連会議の行動計画が実施され、ODAについての合意が実行されるべきである。債務免除の措置が取られるべきであるし、債務軽減措置が講じられるべきである。

そのあと、国連の役割と評価について述べて、開発の十年計画は終わっている。

いろいろな集会・講座の案内です  
開催日時の早い順です

#### 講演会 インドの女たち

横浜女性フォーラムでは、3月9日午後2時半から2時間の予定で、JR戸塚駅前の同フォーラムの2階セミナールームで、鳥居千代香さんによる表題の講演会を開く。参加費300円。予約による託児の便がある。申し込みは045-862-5056の情報ライブラリーカウンターへ。

#### 子どもの権利条約学習会

幼い難民を考える会は子どもの権利条約についての連続学習会を開いているが、

第7回を3月9日、第8回を4月20日、いずれも土曜日の午後2時から開催する。第7回の主題は世界の子どもにとっての権利条約の意味、第8回は武器としての子どもの権利条約。前者は東京塗料会館で、後者は幼い難民を考える会の事務所が会場（いずれもJR信濃町駅近く）で、参加費は500円。東京都新宿区南元町6-2（電話03-3353-9947）の主催者に事前申し込みが必要。

#### 定住者のための日本語シンポジウム

神奈川県国際交流協会は3月10日（日）午前10時から定住者のための日本語シンポジウムを開く。午前中はパネル討論、午後は参加者による分科会討論で、参加費は無料だが、人数に制限がある。電話045-671-7070へ申し込むこと。会場は横浜市中区にある産業貿易センタービル9階の神奈川県国際交流センター。

なおこれにあわせて定住者や日本語教材、ボランティアグループなどについての展示を3月末まで、同センターで開いている。

#### JVCソマリア最終報告会

日本国際ボランティアセンターは3月13日（水）午後6時から、JR飯田橋駅そばの東京都婦人総合センター（飯田橋セントラルプラザ内）で、砂漠に緑は残ったかと題するソマリアプロジェクト7年を検証する報告会を開く。資料代300円。問い合わせは電話03-3834-2388の日本国際ボランティアセンターまで。

#### JVC研究集会 湾岸戦争をどうとらえるか

同じく日本国際ボランティアセンターは3月16日（土）午後2時から、東京都新宿区の早稲田奉仕園小ホールで、湾岸戦争をどの立場で、どうとらえるかについての研究集会を開く。参加費500円。問い合わせは電話03-3834-2388まで。

湾岸戦争被災の子どもたちのための  
NGO 合同バザーに ご協力ください

東京YMCA、曹洞宗ボランティア会、シャプラニールなど十団体が、湾岸戦争被災の子どもたちのためにと銘打って合同バザーを、3月23日（土）午前10時から午後5時まで、東京都新宿区西早稲田の東京YMCA山手ランチ会館で開く。平和や人権回復にむけてのキャンペーンの場にするるとともに、バザー売上げを参加団体それぞれのルートによって湾岸戦争の被災児童のために用立てようとするもので、バザー出品物の提供、当日のボランティア協力、そしてバザー参加を広く呼びかけている。

問い合わせはバザー事務局を担当している東京都新宿区西早稲田2-18-12山手YMCAの江口まで（03-3202-0321）。

スリランカへの生活体験ツアー  
AHI が企画しています

7月27日から2週間、スリランカの農村開発の現場で生活体験をしながら、日本社会や自分の生活を見直そうというスタディツアーの参加者を愛知県のAHIが募集中。費用は航空運賃や滞在費などを含んで約25万円、募集人員は12名。問い合わせは電話05617-3-1950の宇井まで。

## 協議会事務局から

### ☆ 第35回 運営会議

1月18日の夜に開かれ、各小委員会の活動状況が報告されたのち、十年の歴史をへた協議会のあり方と全国研究集会のかかわりという基本的な問題を討議した。

### ☆ 第36回 運営会議

2月28日の夜に開かれ、前回の討議をうけて、研究集会を担当する小委員会から開催要項案が提示され、それにそって夏の研究集会の開催方法を検討した。その一部の内容は別項で紹介したが、この討議をもとに理事会提出原案をまとめることになった。

【新入・継続会員】（敬称略、1月5日～2月28日、到着順）

#### < 新入会員 >

河合千尋（大阪） 高江洲朝子（東京） 藤原 樹（岡山） 蛭原知子（神奈川） 下藤 実（長野） 大山恭子（愛知） 三浦美智子（茨城） 中山菜穂子（福岡） 石井由美子（神奈川） 金光律子（東京） 西尾考志（岐阜） 奥村 功（大阪） 西本和代（兵庫） 梅村治夫（京都） 森尾讓治（神奈川） 中村正之（東京） 吉澤千佳（愛知） 徳永由美子（奈良） 望月浩明（神奈川） 蓮沼美栄（神奈川）

#### < 継続会員 >

小沢晴司（長野） 千葉大健（宮城） 佐々木康男（福井） 西岡咲智子（大阪） 土井二郎（東京） 中尾重嗣（広島） 渋谷弥生（大阪） 相馬克行（東京） 坂田喜子（千葉） 坂井俊樹（東京） 木内圭一（埼玉） 植松茂男（大阪） 四車ユキコ（広島） 八木沢千枝子（青森） 岩崎裕保（大阪） 千布浩行（佐賀） 赤石和則（埼玉） 平岩継生（愛知） 藤原孝章（兵庫） シャプラニール＝市民による海外協力の会（東京） 幸田雅夫（東京） 樋口真貴子（東京） 醍醐誠一（千葉） 田中祥一（神奈川） 田中 力（東京） 広畑周子（岡山） 木村真吾（神奈川） 長谷川 勉（千葉） 木原三彦（埼玉） 榑原智子（埼玉） 内田 幸（東京） 森 正恵（京都） 鈴木寛一（東京）